

した当病院の歯科医師18名、看護師9名、歯科衛生士2名で、それ以外の職員207名を対象とし、3班に分かれてBLSとAED使用方法について講義と実習を楽しく行った。院外でも心肺蘇生を行う可能性を考慮し、受講者全員にポケットマスク（人工呼吸を容易にする器具）を進呈し、携行を勧めた。受講者にアンケートを行った結果、92%から楽しかったという回答を得た。今後もこのような講習会を開催し、病院の安全、医療の安全に貢献したいと考えている。

【結 語】院内BLS-AED講習を行い、全職員にBLSとAEDの流れを体験してもらった。職種を問わず、全職員が楽しい雰囲気講習会を行えるよう工夫した結果、92%から「楽しかった」との回答が得られた。また受講したいと思ってもらうことが重要と思われ、毎年の講習内容をステップアップさせていきたい。

3) Early exposure におけるミラーテクニックへの取り組み

○中埜 高、佐々木重夫、菊井 徹哉
佐藤 穂子、今井 啓全、森下 浩江
笹原 麻美¹、田辺 弘毅²、天野 義和
(奥羽大・歯・歯科保存、附属病院¹、

医療法人社団康心会大船ガーデンアソシエクリニック²)

【緒 言】演者らは奥羽大学歯学部第1学年の附属病院体験学習の中で、将来歯科医師になるための自覚と認識を高めさせる目的でミラーテクニックの体験学習を行ったので報告する。

【方 法】本学第1学年102名を平成17年4月22日～7月14日の間に20回に分け、総合歯科第1診療室医局において行った。学習内容は1. 体験学習前質問紙調査（プレアンケート：5設問）。2. 歯科診療におけるミラーテクニックの必要性に関する説明（術者の診療姿勢や患者の体位など）。3. 2人が1組となり、相手の差し出した鏡を見ながら自己の名前書き（ひらがな、漢字、ローマ字）、図形の線引き、迷路たどり（単純、複雑なもの）。4. 各自での迷路たどり（複雑なもの）。5. デンタルミラーを用いて口腔内模型の歯を探針で触れる練習（マネキン使用）。6. 体験学習後質問紙調査（ポストアンケート：8設問）とした。

【結 果】出席率は89.2%（91名うち男性 73名、女性 18名、平均年齢20歳2ヵ月）であった。プレアンケートの結果では日常生活において鏡を「毎日みる」、鏡の特性として「左右が逆に写る」、鏡の材質は「ガラスでできている」の回答率が高く、歯科健診や歯科治療に鏡を「使用すると思う」や「歯科健診や歯科医院で鏡の使用を見た」などの回答率が高かった。ポストアンケートの結果では本体験学習は「楽しかった」が、鏡を使用しての名前書き、図形の線引きおよび迷路たどりは「逆に写るところ」が「難しく」、体験してみても「眼」や「首」が「疲れた」との回答率が高かった。また、歯科診療においてミラーテクニックは必要と「思う」、本格的なミラーテクニックを習得したいと「思う」および本体験学習を受けて歯科医師になるモチベーションが「あがった」との回答率が高かった。

【結 論】質問紙調査の結果から本学歯学部第1学年においてデンタルミラーは歯科健診や歯科治療に使用されているなど、その認知度は高いことがうかがえた。鏡を用いた体験学習は日常の使い方と異なるので「難しかった」、「疲れた」などの回答が多かったが、全ての者が「楽しかった」と回答し、将来、歯科医師になるモチベーションが「あがった」と回答した者も多く、本体験学習の目的は達成されたと思われた。しかし、モチベーションが「あがらなかった」と回答した者もあり、より臨床の場に近い設定として、マネキンを使用するものは実際の治療椅子で行うなど、さらに充実した内容の検討が必要であると思われた。

4) 口唇・口蓋裂治療における太田綜合病院附属太田熱海病院との連携

○黒田 栄子、大植 一樹¹、藤井 亮司²、小川 智子³
三澤 敬典⁴、本田エミ子⁵、渡辺 文裕⁶、大河原順子⁷
国分 敦子⁸、阿部眞由美⁹、塚原 恵子⁹、廣瀬 将邦⁹
松山 仁昭、福井 和徳、氷室 利彦
(奥羽大・歯・成長発育歯、顎顔面口腔矯正学¹、
太田熱海病院・歯科²、形成外科³、耳鼻咽喉科⁴、
言語療法科⁵、臨床心理室⁶、医療社会福祉部⁷、
栄養部⁸、看護部⁹)

太田熱海病院における昭和大学歯科病院矯正歯